学長定例記者会見要項

日　　時：　令和５年３月９日（木）　１１：００～１１：４５

場　　所：　法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟３階）

発表事項

１．本学学生が最新AI翻訳エンジンの開発に貢献

～卒業生が経営する企業からの受託事業を実施～

２．「地上絵の謎と保護～挑戦する研究者たち～　山形大学ナスカ研究所の１０年展」

～研究所のあゆみとナスカの地上絵の謎に迫る特別展を開催～

３．ガラス並みのウルトラ・ハイバリア／印刷で水蒸気バリアの世界最高性能を達成

４．地域に開かれた地域共創 STEAM 教育推進センターへ～専属キャラクター決定しました！～

５．地域の日本語教育環境の充実に向けた取り組み

～日本語教師を目指す人に向けた、基礎を実践的に学ぶ講座～

６．東北地方で現在の様な樹氷（アイスモンスター）ができるようになったのは 1000 年前頃からであることが分かりました

お知らせ

１．山形大学学位記授与式等の取材に対するお願い

２．令和５年度山形大学入学式について

（参　考）

○ 次回の学長定例記者会見（予定）

日　時：令和５年４月６日（木）１１：００～１１：４５

場　所：法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟３階）

学長定例記者会見（３月９日）発表

１．本学学生が最新AI翻訳エンジンの開発に貢献

～卒業生が経営する企業からの受託事業を実施～

学術研究院　教授（英語学）　鈴木（すずき）　亨（とおる）

学術研究院　教授（ドイツ文学、比較文化）　渡辺（わたなべ）　将尚（まさなお）

トランスユーロ株式会社代表取締役　井口（いのくち）　雄一（ゆういち）

トランスユーロ株式会社AI推進室　齊藤（さいとう）　真由子（まゆこ）

シストランジャパン合同会社日本代表　江上（えのうえ）　聡（さとし）

２．「地上絵の謎と保護～挑戦する研究者たち～　山形大学ナスカ研究所の１０年展」

～研究所のあゆみとナスカの地上絵の謎に迫る特別展を開催～

山形大学ナスカ研究所長　是川（これかわ）　晴彦（はるひこ）

山形大学ナスカ研究所副所長　坂井（さかい）　正人（まさと）

山形大学附属博物館館長　大友（おおとも）　幸子（ゆきこ）

研究情報部学術情報課（附属博物館）　押野（おしの）　美雪（みゆき）

３．ガラス並みのウルトラ・ハイバリア／印刷で水蒸気バリアの世界最高性能を達成

学術研究院　教授（有機エレクトロニクス、バリア構造）　硯里（すずり）　善幸（よしゆき）

４．地域に開かれた地域共創 STEAM 教育推進センターへ～専属キャラクター決定しました！～

地域共創 STEAM 教育推進センター長・山形大学副学長（社会共創担当）　大森（おおもり）　桂（かつら）

地域共創 STEAM 教育推進センタープロジェクト教員　安達（あだち）　茜（あかね）

５．地域の日本語教育環境の充実に向けた取り組み

～日本語教師を目指す人に向けた、基礎を実践的に学ぶ講座～

学術研究院　教授（日本語教育学）　内海（うつみ）　由美子（ゆみこ）

６．東北地方で現在の様な樹氷（アイスモンスター）ができるようになったのは 1000 年前頃からであることが分かりました

山形大学蔵王樹氷火山総合研究所 副所長　柳澤（やなぎさわ）　文孝（ふみたか）

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

PRESS RELEASE

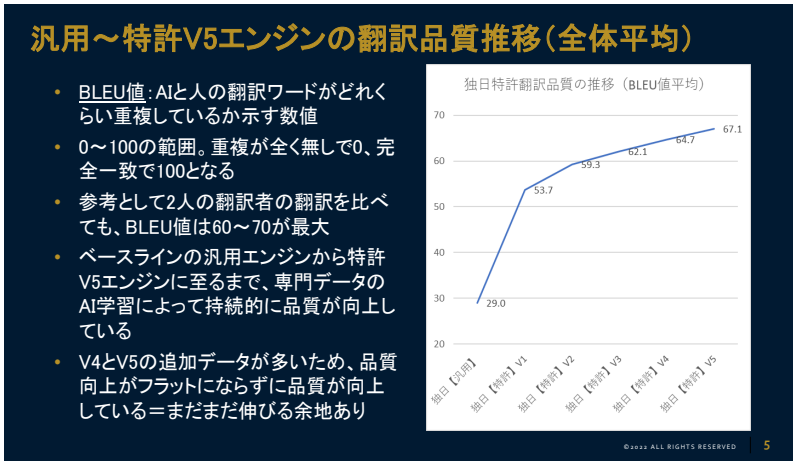
令和５年（2023年）3月9日

本学学生が最新AI翻訳エンジンの開発に貢献

～卒業生が経営する企業からの受託事業を実施～

【本件のポイント】

- 令和３年度にトランスユーロ株式会社（東京都千代田区）と受託事業「訳文データ（原文・訳文）の量に応じたAI翻訳エンジンによる翻訳精度の変化」契約を締結。その後令和４年12月に契約を更新、令和５年度12月まで継続の予定。
- 本事業は鈴木亨教授（英語学／人文社会科学部担当）が受託し、渡辺将尚教授（ドイツ文学／人文社会科学部担当）の協力を得て、同学部・大学院の学生10名が、AI翻訳エンジン（英→日･独→日）の訳文データの処理と翻訳精度の確認に携わり、最先端の技術開発に貢献。



- 同社代表取締役の井口雄一氏と、本事業における翻訳エンジン開発に協力をいただいている江上聡氏（システランジャパン合同会社代表）は、いずれも本学人文学部（現・人文社会科学部）の卒業生。

【概要】

山形大学は、令和３年７月６日にトランスユーロ株式会社（東京都千代田区）と受託事業「訳文データ（原文･訳文）の量に応じた AI 翻訳エンジンによる翻訳精度の変化」契約を締結、現在令和５年 12 月 31 日までの契約を更新している。

本事業は鈴木亨教授（英語学／人文社会科学部）が受託、渡辺将尚教授（ドイツ文学／人文社会科学部）の協力を得て、同学部・大学院の学生 10 名が、AI 翻訳エンジン（英→日･独→日）の訳文データの処理と翻訳精度の確認作業に携わり、最先端の技術開発に貢献している。

同社代表取締役社長の井口雄一氏は、本学人文学部（現・人文社会科学部）の卒業生であり、翻訳エンジンの開発という貴重な事業を本学に委託された。学生にとっては、最先端の技術開発事業に貢献できるとともに、コロナ禍でアルバイトが減少する中、本学のアドミニストレイティブ・アシスタント（※１）として雇用することで、経済的支援にもつながった。

【受託事業概要】

〇委託者：トランスユーロ株式会社　東京都千代田区東神田 1-2-2
代表取締役　井口　雄一　氏（平成４年山形大学人文学部卒業）
事業内容：特許翻訳、技術翻訳、法律文書翻訳など、主にドイツ語・英語全般に関わる翻訳業務

〇事業題目：訳文データ（原文･訳文）の量に応じた AI 翻訳エンジンによる翻訳精度の変化

〇事業担当者：学術研究院（人文社会科学部担当）教授　鈴木　亨
学術研究院（人文社会科学部担当）教授　渡辺　将尚（協力）

お問い合わせ
学術研究院　教授（英語学／人文社会科学部担当）鈴木　亨
TEL　023-628-4795
メール torus@human.kj.yamagata-u.ac.jp

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

【関係者のコメント】

〇トランスユーロ株式会社　代表取締役　井口　雄一　氏

１．山形大学に委託した理由

今回のプロジェクトは 2020 年の年明けからスタートさせております。当初は単独での開発を優先し、自社の社員のみで対応することを想定しておりました。しかし、業務繁忙が続いたことにより、開発の遅れが懸念されたことから、外部団体との協働を模索するようになりました。その際、新型コロナウイルスの蔓延という予想だにしなかった逆風により、企業活動は勿論のこと、日本の将来を担う学生の就業環境も厳しい状況に置かれている現状を考えるに至り、「当社と最良のバランスを保てる機関」として貴学にお声がけをさせていただきました。

２．事業の進捗状況

順調に進んでおり、現在、英日、独日とも Ver 05 まで出来上がっております。リリースの都度、その精度については大学と情報共有しておりますが、担当して頂いている学生の殆どが 4 年生であったことから、昨秋以降は学業を最優先として頂き開発ペースをセーブいたしました。しかし、それまでの進捗が非常に早かったことからほぼ予定通りのスケジュール消化となっております。

	Ver 01	Ver 02	Ver 03	Ver 04	Ver 05	Ver 06
英日	2021/10	2021/11	2022/12	2022/2	2022/5	2023/8？
独日	2021/12	2022/3	2022/5	2022/7	2022/12	2023/10？

３．今後の展望等

当初は社内に限定した運用を想定しておりましたが、昨秋より外部団体からもお問い合わせを頂くようになりました。現在では、利用を希望する団体を対象とした「無償トライアル制度」を構築し、（条件はあるものの）、英日（Ver 05）についてはいくつかの企業様に積極的にご利用頂いております。また、社内では気づきづらいコメントも多々頂けておりますので、これにより、更なる精度向上を図ることが可能であると考えております。加えて、今年からは、独日（Ver05）の外部への開放を早い段階で行いたいと考えております。独日についても、今後の市場ニーズに応えるべく、大学にはプロジェクトにご参加頂ける新たな学生の確保にご協力頂きたいと思っております。

〇学術研究院（人文社会科学部担当）渡辺　将尚　教授

AI 技術の発展に不安を抱いている方もいらっしゃるかと思います。私も始めはそうでした。しかし本プロジェクトに関わっていく中で、AI が学習する内容は、かつて人間が自らの頭脳を使って行った作業結果の集積であること、AI が能力を上げていく際にも人間の手が必要となること、以上のようなことを知るに至りました。過度に怖れるのではなく、適切に人間が関与することによって、人間にとってもメリットのあるシステムを構築することができる。現在そのような思いをもって、学生たちの作業を見守っているところです。

〇大学院社会文化創造研究科２年　有路真奈さん（参画学生）

作業の中では、ビジネスの場で実際に用いられているドイツ語の文章、そしてその日本語への巧みな翻訳手法を拝見できることで、よりリアルなドイツ語の世界を体感できる貴重な機会を頂いていると感じます。今後ますます発展を遂げていく AI 翻訳の品質向上に、微力ながらお手伝いさせていただいておりますこと、さらに、その進化の瞬間に立ち会わせていただいておりますこと、至極光栄に存じます。

※用語解説

１．アドミニストレイティブ・アシスタント：修学に支障のない範囲において、本学の業務・事業に本学の学生を参画させることにより、学生支援業務等の充実と学生の就業意識の向上を図り、また、学生に対する経済的支援を目的とした本学独自の制度。

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

PRESS RELEASE

山形大学
Yamagata University

令和５年（2023年）3月9日

「地上絵の謎と保護～挑戦する研究者たち～ 山形大学ナスカ研究所の１０年展」

～研究所のあゆみとナスカの地上絵の謎に迫る特別展を開催～

【本件のポイント】

- 山形大学ナスカ研究所(旧名称 山形大学人文学部附属ナスカ研究所)の開所10周年を記念した展覧会です。
- 研究所の設立から現在までのあゆみ、そして実際に研究を行っている研究者たちの姿を紹介します。
- 研究所開設当初を知る渡邊洋一名誉教授（羽陽学園短期大学学長）、坂井正人教授による公開講座「山形大学におけるナスカ研究」を開催します。

【概要】

昨年、168 点の新発見発表は大きな話題となり、新聞やテレビなどで広く取り上げられました。これまでも新発見報道のたび山形大学のナスカ研究は興味関心を集めてきました。研究所の開所 10 周年を迎えたことを機に附属博物館にて特別展を開催し、今回初めて研究所の取り組みの歴史を振り返ります。なぜ山形大学が世界で唯一立ち入りが許可された大学であるのかなど、山形大学と地上絵研究のあゆみを知っていただく機会とします。

また、学際的な研究や発展する研究手法の成果は現地での地道な踏査を経て地上絵の謎の解明に結びついています。研究で使われている AI サーバーやウェアラブルカメラ、立体視鏡など実際の研究道具を展示します。

本展は、地上絵の謎に迫りつつ、その謎に挑む研究者たちの姿と今も破壊が進む地上絵の保護活動について理解を深めていただくことを目的としています。

【開催概要】

会　　期：2023 年 3 月 15 日（水）～5 月 12 日（金）
休 館 日：3 月 18 日（土）、19 日（日）、25 日（土）、26 日（日）、5 月 3 日（水・祝）～7 日（日）
会館時間：平日 9 時 30 分～17 時、土日祝日 10 時～16 時
入 館 料：無料
主　　催：山形大学ナスカ研究所・山形大学附属博物館
共　　催：山形大学地域共創 STEAM 教育推進センター
協　　力：山形大学健康と学びのサポートセンター
みどころ
・地上絵と神殿をめぐる巡礼ルートを空から案内する動画
・どんな研究者がどんな研究をしているのか？研究所のみなさんによる研究紹介
・体験コーナー「地上絵を探せ！」ナスカ台地の衛星写真を印刷したマットの上に乗って地上絵を探してみよう！

【3月15日（水）オープニングセレモニー】

来賓をお招きし開展式を行います。テープカットの後、坂井正人教授による展示解説を行います。
時　　間：9 時 00 分～9 時 30 分
※招待客と報道関係の方のみに限らせていただきます。

お問い合わせ
研究情報部学術情報課／山形大学附属博物館（押野）
TEL　023-628-4930　　メール　yu-hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

【関連企画】

●公開講座「山形大学におけるナスカ研究」
講師：渡邊洋一（羽陽学園短期大学学長・山形大学名誉教授）、坂井正人（山形大学人文社会科学部教授）
会場：山形大学小白川キャンパス人文社会科学部 1 号館 1 階 103 教室およびオンライン（Zoom）
日時：3 月 21 日（火・祝）13 時 30 分〜15 時
無料・要申し込み
申し込み先はチラシをご覧ください

●人工芝のグラウンドに地上絵をかいてみよう！
講師：坂井正人（山形大学人文社会科学部教授）
会場：山形大学小白川キャンパス人文社会科学部 1 号館 1 階 103 号室・陸上競技場（雨天時：第一アリーナ）
日時：4 月 15 日（土）13 時 00 分〜15 時 40 分
対象：小学校 4 年〜 6 年生
定員：30 名（要申込・定員数に達した場合抽選となります）
無料・要申し込み
詳細はチラシをご覧ください。

●小学生から大人まで一山形大生による展示解説会
解説：附属博物館
日時：4 月の土曜、日曜（ただし 15 日は除く）
　　午前の部（小学生対象）　　11 時〜12 時
　　午後の部（中学生以上対象）14 時〜15 時
対象：小学生以上（午前の解説は小学生が対象です。保護者の付き添いなしでの見学になります）
定員：各回 12 名（要申込・定員数に達した場合抽選となります）
無料・要申し込み
詳細はチラシをご覧ください

地上絵の謎と保護

挑戦する研究者たち
山形大学ナスカ研究所の10年展

2023.
3/15(水)～5/12(金)

4月中は土日も開館！

関連イベントもあるよ

休館日：3月18日(土)、19日(日)、25日(土)、26日(日)
5月3日(水・祝)～7日(日)
開館時間：平日9:30～17:00、土日祝日10:00～16:00
入館料：無料
会場：山形大学附属博物館、人文社会科学部1号館1階学生用多目的室1
主催：山形大学ナスカ研究所・山形大学附属博物館
共催：山形大学地域共創STEAM教育推進センター
協力：山形大学健康と学びのサポートセンター
観覧について：入口の入館者カードに必要事項をご記入のうえお入りください。なお、感染症対策のため、定員を12名とさせていただきます。
12名を超える団体見学の場合は事前にご相談ください(混雑が予想される時間帯は入場を制限する場合があります)。
見学予約の状況は当館ホームページのカレンダーをご覧ください。

山形大学附属博物館
TEL:023-628-4930 FAX:023-628-4668
E-mail:yu-hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
〒990-8560 山形県山形市小白川町1丁目4-12 人文社会科学部1号館1階

2022年、山形大学ナスカ研究所（旧名称 山形大学人文学部附属ナスカ研究所）がナスカに開設されて10周年を迎えました。研究所開設から現在まで山形大学が中心となり、日本およびペルーの研究者とともに地上絵の実態の解明に取り組んできました。学際的な研究と発展する研究手法の成果は、現地での地道な踏査を経て地上絵の謎の解明と保護活動に結び付いています。

本展では、ナスカ研究所のあゆみ、そして現在の研究者たちの姿をパネルや動画でご紹介します。地上絵がいつ、なぜ作られたのかなどの謎に迫りつつ、現在も破壊がすすむ地上絵の保護活動を知っていただければ幸いです。

見どころ

- 地上絵と神殿をめぐる巡礼ルートを空から案内する動画
（附属博物館）
- どんな分野の研究者がどんな研究をしているのか？研究所の皆さんによる研究紹介
（附属博物館）
- 体験コーナー「地上絵を探せ！」ナスカ台地の衛星写真を印刷したマットの上に乗って地上絵を探してみよう
（人文社会科学部1号館1階学生多目的室1）

関連イベント

【公開講座「山形大学におけるナスカ研究」】 無料 要申込（3月17日(金)締切）

研究所開設からの現在までの歩みを渡邊洋一氏と坂井正人教授よりご講演いただきます。
会 場：山形大学小白川キャンパス人文社会科学部１号館１階103教室およびオンライン（Zoom）
日 時：３月21日（火・祝）13：30 ～ 15：00
講 師：渡邊洋一（羽陽学園短期大学学長・山形大学名誉教授）、坂井正人（山形大学人文社会科学部教授）
定 員：会場70名、オンライン最大300名

会場申込

Zoom申込

【人工芝のグラウンドに地上絵をかいてみよう！】 無料 要申込

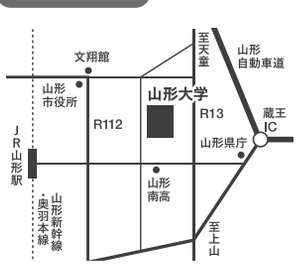
ふかふかの全天候型グラウンドの上に地上絵を描いてみませんか！
できた地上絵をみんなでみてみよう！
会 場：山形大学小白川キャンパス 全天候型グラウンド（雨天時：第1体育館アリーナ）
日時：４月15日（土）13：00 ～ 15：40
講 師：坂井正人（山形大学人文社会科学部教授）
対 象：小学校4年生～ 6年生
定 員：30名（要申込・定員数に達した場合抽選となります）

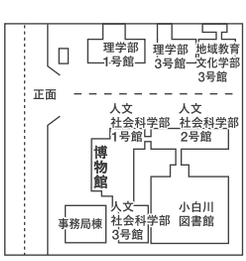
詳細はこちら

【小学生から大人までー山形大生による展示解説会】 無料 要申込

山形大生がナスカの地上絵について一緒に展示を見ながら解説します。
会 場：山形大学附属博物館
日 時：４月の土曜、日曜（ただし15日は除く）
午前の部（小学生対象）11：00 ～ 12：00 ／午後の部（中学生以上対象）14：00 ～ 15：00
対 象：小学生以上（午前の解説は小学生が対象です。保護者の付き添いはできません。）
定 員：各回12名（要申込・定員数に達した場合抽選となります）

アクセス





●公共交通機関の利用/JR山形駅前より「ベニちゃんバス東くるりん東原町先回りコース」乗車「山大前」下車徒歩2分。

お車のお客様へ

駐車場はご利用できません。ご面倒をおかけしますが、最寄りのコインパーキングをご利用ください。

※感染状況により展覧会及びイベントが変更または中止になる場合がございます。最新情報は当館ホームページでご確認ください。

山形大学附属博物館
TEL：023-628-4930 FAX：023-628-4668
E-mail：yu-hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
〒990-8560 山形県山形市小白川町1丁目4-12 人文社会科学部1号館1階

スケジュール

附属博物館・人文社会科学部1号館1階
学生多目的室1
〇9:30～17:00

3月

15 水	〇
16 木	〇
17 金	〇
18 土	休館日
19 日	休館日
20 月	〇
21 火	10:00-16:00
22 水	〇
23 木	〇
24 金	〇
25 土	休館日
26 日	休館日
27 月	〇
28 火	〇
29 水	〇
30 木	〇
31 金	〇

4月

1 土	10:00-16:00
2 日	10:00-16:00
3 月	〇
4 火	〇
5 水	〇
6 木	〇
7 金	〇
8 土	10:00-16:00
9 日	10:00-16:00
10 月	〇
11 火	〇
12 水	〇
13 木	〇
14 金	〇
15 土	10:00-16:00
16 日	10:00-16:00
17 月	〇
18 火	〇
19 水	〇
20 木	〇
21 金	〇
22 土	10:00-16:00
23 日	10:00-16:00
24 月	〇
25 火	〇
26 水	〇
27 木	〇
28 金	〇
29 土	10:00-16:00
30 日	10:00-16:00

5月

1 月	〇
2 火	〇
3 水	休館日
4 木	休館日
5 金	休館日
6 土	休館日
7 日	休館日
8 月	〇
9 火	〇
10 水	〇
11 木	〇
12 金	〇

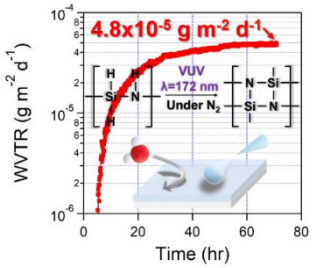
配布先：学長定例記者会見

PRESS RELEASE

山形大学 Yamagata University

令和5年（2023年）3月9日

ガラス並みのウルトラ・ハイバリア／印刷で水蒸気バリアの世界最高性能を達成



【本件のポイント】

●印刷・塗工プロセス＋光照射により高いバリア性能を達成（世界最高性能）

●低コスト化・低炭素化でメリットがあり、デバイスだけでなく広い産業で応用が期待される

●本研究は2件の受賞や論文カバーにも選出され、JST新技術説明会やJST Newsでも紹介されている

印刷や塗工が可能なウルトラ・ハイバリアを開発した。従来、高いバリア性能を達成するには真空成膜法が用いられており、生産性が悪く高価であった。本研究ではインクを印刷・塗工し、紫外線の一種（VUV 光：波長 172nm）を照射することで緻密な無機膜を形成し高いバリア性能を達成した。得られたバリア性能はこれまで知られているウェットコートによるバリアの 100 倍程度の性能向上であり、ウェットコートによるバリアの世界最高性能ある。これらの成果の論文掲載（カバーにも選出）ならびに特許出願が完了した。本技術は低コスト化に加え、低炭素化にも寄与できる。バリア技術は幅広く応用可能であり、OLED やセンサ、太陽電池、リチウム二次電池のようなデバイスだけでなく、包装分野等にも展開を進める予定である。2 件の受賞や論文カバー選出に加え、JST 新技術説明会や JST news でも紹介されている

【研究内容】

バリア技術は広く産業に用いられている。その多くが水蒸気もしくは酸素に対するバリア技術である。水蒸気バリア技術は各種デバイス（OLED、トランジスタ、センサ、太陽電池等）に用いられており、パッシベーション膜とも呼ばれている。一方で、酸素バリア技術は食品や工業製品、医療品等の包装用途として用いられている。一般的に高いバリア性能は真空成膜法（スパッタ法、CVD 法等）で製造されてきた。真空成膜法で得られるバリアは、その手法や構造にも依存するが、水蒸気・酸素を透過しないガラス並のバリア性能（水蒸気透過率＜10^{-5}g/m2/day）の達成が可能である一方、スループットが悪く高価である。一方で低コスト化が可能な印刷・塗工によるバリア性能は低い（水蒸気透過率＝$2x10^{-3}$g/m2/day）という課題があった。

山形大学硯里研究室では、印刷や塗工が可能なウルトラ・ハイバリア技術の研究を独自に行ってきた。溶解可能な前駆体をウェットコートし、室温・真空紫外光（VUV 光：波長 172nm）を照射することで緻密な無機膜を得る手法である。前駆体として Si-N を主鎖としたポリシラザン（PHPS）を用い、窒素下・室温で VUV 光照射を行うことで緻密な SiN 膜を得ることに成功していた。今回、本反応を利用したバリア構造では、ウェットプロセスとしては世界最高のバリア性能（水蒸気透過率＝$5x10^{-5}$g/m^2/day）を達成した。このバリア性能はこれまでの性能を 2 桁更新するもので真空成膜に迫る性能である。また光学的に透明であること、屈曲性があることに加え、印刷・塗工プロセスであることから低コスト化・低炭素化が可能であることも大きなメリットである。

論文掲載：*Advanced Materials Interfaces*, 2022, 2201517、　特許出願：特願 2022-148356 号

【今後の展望】

本技術は、印刷・塗工によるハイスループット・低価格化だけでなく、印刷プロセスにより必要な部分のみにパターニングできる。「欲しい場所に欲しいバリア」の実現を目指し、インクジェットプロセスによるバリア膜研究も進めている。更に真空装置を必要としないという観点から低炭素にも大きく寄与できる技術である。本研究は特に水蒸気バリア性能の向上を目指したものであるが、酸素バリア性能にも効果を発揮すると考えており、長期的には食品包装や医療用包装などの包装分野にも貢献していきたい。

※用語解説

1．水蒸気透過率（度）：単位面積（㎡）、単位時間（day）あたりの透過する水蒸気量（g）で評価する指標
　　値が小さいほど、高い水蒸気バリア性能を示す

2．真空紫外光：波長が 10～200nm の紫外光のことを特に真空紫外光（VUV：Vacuum Ultra Violet）と呼ぶ

【受賞】

1．応用物理学会　第 83 回応用物理学会秋季学術講演会　講演奨励賞を受賞（D3　佐々木樹）

2．国際会議 IDW'22 にて Best Paper Award を受賞（佐々木樹、孫麗娜、黒澤優、高橋辰弘、硯里善幸）

配布先：学長定例記者会見

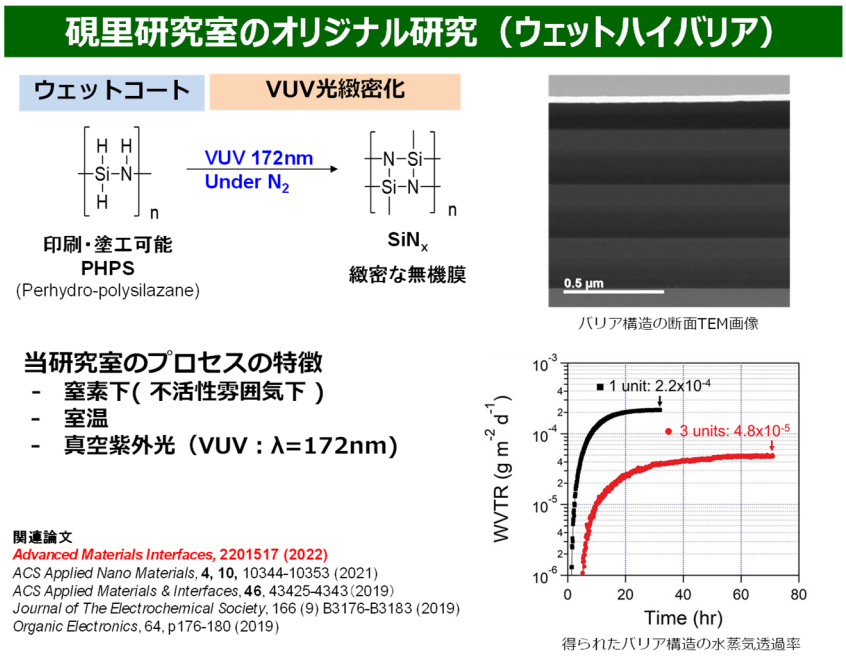
【掲載・発表】

1.　国立研究開発法人科学技術振興機構（略称 JST）　JST news 2023 年 2 月号に掲載
2．JST 新技術説明会発表　Youtube 動画：https://youtu.be/5EGp6r6NgAA
3．JST 中国ポータルサイト「客観日本」掲載
https://www.keguanjp.com/kgjp_keji/kgjp_kj_newtech/pt20230301000004.html

【謝辞】本研究の一部はJST A-STEP、COI、OPERAプログラム、JSPS科研費基盤Cの支援を受けたものである。
JST　A-STEP（グラント No. JPMJTR21T8）、JST　COI プログラム（グラント No. JPMJCE1312）、JST　OPERA プログラム（グラント No. JPMJOP1844）、JSPS 科研費　基盤 C（グラント No. 20K05640）

――――――――――★詳細情報――――――――――

・研究内容



・論文

Tatsuki Sasaki, Lina Sun, Yu Kurosawa, Tatsuhiro Takahashi, Yoshiyuki Suzuri*
“ Solution-Processed Gas Barriers with Glass-Like Ultrahigh Barrier Performance “
Adv. Mater. Interfaces 2022, 2201517 (8pp.)
DOI : 10.1002/admi.202201517

・特許　特願 2022-148356 号　出願人　国立大学法人　山形大学

・受賞

1．応用物理学会　第 83 回応用物理学会秋季学術講演会　講演奨励賞　受賞（D3 佐々木樹）
https://www.jsap.or.jp/young-scientist-presentation-award/recipients53
22p-B104-14 ガラス並みの高バリア性能を有する塗布型 PHPS バリア膜の開発
佐々木樹，吉田 麗娜，黒澤 優，高橋 辰宏，硯里 善幸　山形大院有機材料シス，山形大 INOEL

2．国際会議 IDW’22（The 29th International Display Workshops、Fukuoka）Best Paper Award 受賞
https://www.idw.or.jp/award.html
[FLX5-4]　“Solution-Processed Ultrahigh PHPS Gas Barriers with Glass-like Performance”
Tatsuki Sasaki, Lina Sun, Yu Kurosawa, Tatsuhiro Takahashi, Yoshiyuki Suzuri, Yamagata University (Japan)

・JST news 掲載

JSTnews　2023 年 2 月号　2023.02.01 発行　NEWS & TOPICS 欄　P.15
研究成果『水蒸気侵入をガラス並みに防ぐ薄膜』　山形大学　硯里善幸

配布先：学長定例記者会見

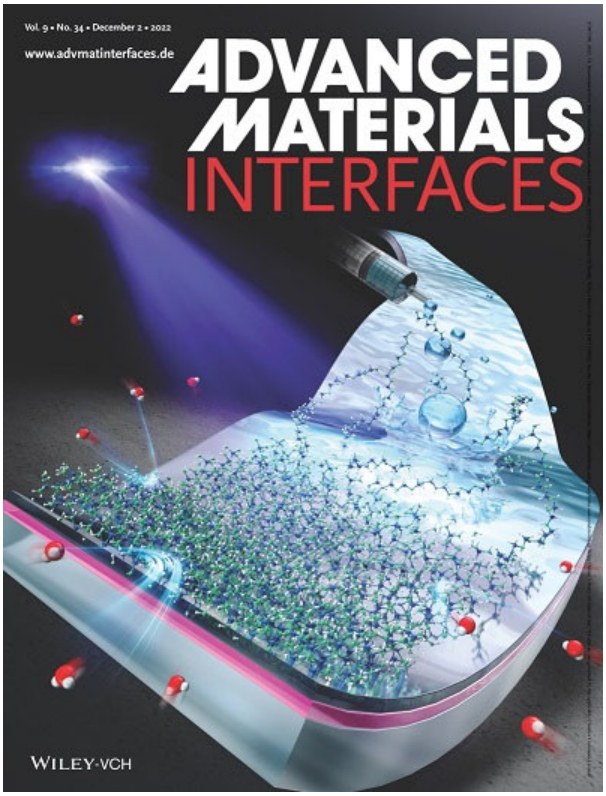
＊JST news：国立研究開発法人科学技術振興機構（略称 JST）の広報誌
https://www.jst.go.jp/pr/jst-news/backnumber/2022/202302/pdf/2023_2.pdf

・JST 新技術説明会

日時：2022 年 11 月 18 日(金) 12:55～14:55（オンライン）　主催：科学技術振興機構
「印刷で作製できるガラス並みのウルトラ・ハイバリア」硯里善幸
https://shingi.jst.go.jp/list/list_2022/2022_jst-2.html#20221118P-004
Youtube 動画：https://youtu.be/5EGp6r6NgAA

・論文 Cover 選出

掲載された論文において Inside Back Cover に選出（*Adv. Mater. Interfaces* 2022, 2201517 (8pp.)）
デザイン： https://onlinelibrary.wiley.com/toc/21967350/2022/9/34



お問い合わせ
学術研究院教授　硯里善幸（専門分野）有機エレクトロニクス、バリア構造
TEL　0238-29-0577　　メール suzuri@yz.yamagata-u.ac.jp

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

PRESS RELEASE

山形大学
Yamagata University

令和５年（2023年）３月９日

地域に開かれた地域共創STEAM教育推進センターへ
～専属キャラクターが決定しました！～

【本件のポイント】

- 山形大学では「地域のこどもたちに多様な知（STEAM教育）を直に届ける開かれた大学へ」をミッションとした地域共創STEAM教育推進センター（愛称：YU★STEAM）を2022年4月に開設しました。
- 2022年度は、「はやぶさ＆はやぶさ２実物大模型展示」や、「ドローン謎解きレースで3次元の視点を養おう！」、「HAIKU（俳句）でつながる！？ボローニャ（イタリア）と山形（日本）」等のイベントを実施し、のべ8668名の地域のこどもたちがSTEAMセンターやSCITAセンターのイベントに参加しました。
- 当センター（YU★STEAM）で開催した専属キャラクターコンクールにて長谷部有輝さんの作品「虹のワック」が公式キャラクターに決定しました。
- キャラクターの様々なポージングも完成し、2023年4月から開催されるYU★STEAMの各種イベントにて活躍してもらいます。
- 2023年度は、3月27日12:30～申し込みが開始するやまだいキッズラボ2023を皮切りに、YU★STEAMプログラミング講座やヤマガタステムアカデミー等を予定しており、新しく作成するキャラクターグッズを「やまだいキッズラボ」などのイベント参加者へプレゼントする予定です。来年度はSpiber株式会社様をはじめとする企業やNPO法人とのコラボも予定しています！

【概要】

「つなぐちから。山形大学」をビジョンに掲げる山形大学では、「地域のこどもたちに多様な知（STEAM 教育）を直に届ける開かれた大学へ」をミッションとした地域共創 STEAM 教育推進センター（愛称：YU★STEAM）を 2022 年 4 月に開設しました。

2022 年度は、「はやぶさ＆はやぶさ２実物大模型展示」や、「ドローン謎解きレースで 3 次元の視点を養おう！」、「ブラックホールってなんだ！？作って学んでみよう！」、「HAIKU（俳句）でつながる！？ボローニャ（イタリア）と山形（日本）」等のイベントを実施し、のべ 8668 名の地域のこどもたちが参加しました。

当センターでは、山形大学と子どもたちをつなぐ架け橋としてセンターの専属キャラクターを決定するべく、2022 年に広く地域の皆様にコンクール形式で応募いただきました。総計 180 点の作品の中から長谷部有輝さんの作品「虹のワック」が選ばれ、この度キャラクターの新たなポージングも完成しました。

「虹のワック」には、2023 年度の YU★STEAM で行われる様々なイベント内で活躍してもらいます。2023 年度は、3 月 27 日 12:30~申し込みが開始する「やまだいキッズラボ 2023」を皮切りに、「YU★STEAM プログラミング講座」や「ヤマガタステムアカデミー」などを予定しており、今後、「虹のワック」は、センターHP のナビゲーターとして登場するとともに、『やまだいキッズラボ』などのイベント内で子どもたちへのプレゼントとして、エコバックや消しゴムなどの様々なグッズも作成予定です。来年度は Spiber 株式会社様をはじめとする企業や NPO 法人とのコラボも予定しています。

ぜひ当センターのイベントと、「虹のワック」の活躍を楽しみにしていてください！

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

【キャラクター紹介】

■キャラクターの名前：虹のワック
■キャラクターの設定：実験により生まれた虹の生き物。好奇心旺盛で、いつもキラキラしている。
子どもが大好きで、いつか子どもたちをワクワクさせられるような知識と夢を持った素敵な先生になりたいと思っている。
■制作者：長谷部　有輝さん（36 歳）

【YU★STEAM の今後の活動予定】

・やまだいキッズラボ 2023
・YU★STEAM プログラミング講座
・ヤマガタステムアカデミー
・人工芝のグラウンドに地上絵をかいてみよう！
・小中高校の探究学習サポート

※用語解説
1．STEAM 教育：2019 年 5 月より文部科学省が推進している教育。Science・Technology・Engineering・Art・Mathematics 等の各教科での学習を実社会での問題発見・課題解決に生かしていくための分野横断的な教育です。

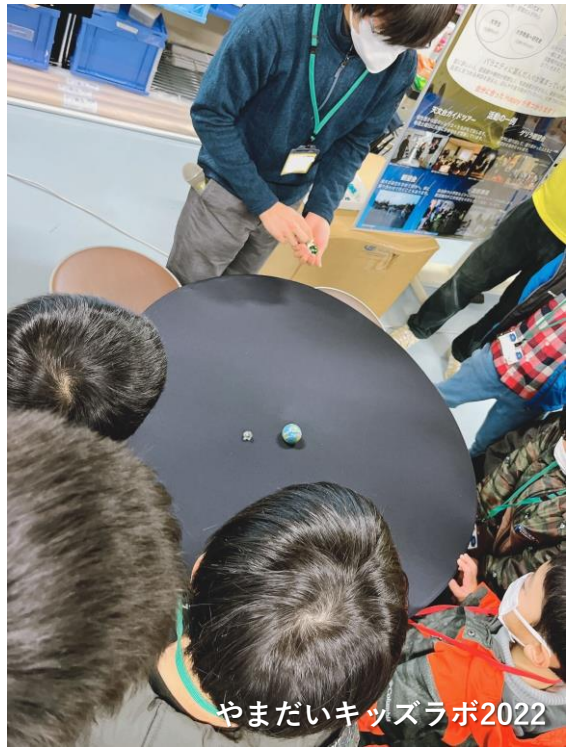
お問い合わせ
地域共創 STEAM 教育推進センター（YU★STEAM）
TEL　023-628-4506（SCITA センター内）
メール　yu-steam@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学地域共創STEAM教育推進センター

～地域のこどもたちに多様な知（STEAM教育）を直に届ける開かれた大学へ～

2022年度 YU★STEAM開催イベント

はやぶさ＆はやぶさ2実物大模型展示



ブラックホールってなんだ！？
作って学んでみよう！

植物の形をデザインしてみよう！

HAIKU（俳句）でつながる！？
ボローニャ（イタリア）と山形（日本）

2022年度は
地域の子どもたちが
8668人利用！

ドローン謎解きレースで
3次元の視点を養おう！

『YU★STEAM専属キャラクター決定』

審査方法

- □　応募期間と総数：2022年7月20日（水）～9月5日（月）12:00　／　180件
- □　第１次審査方法：ＹＵ★ＳＴＥＡＭ運営委員・協力教員計16名による投票によって上位20作品選出
- □　第２次審査方法：ＹＵ★ＳＴＥＡＭ運営委員・協力教員計13名による投票によって上位3作品選出
- □　第３次審査方法：ＹＵ★ＳＴＥＡＭ運営委員・協力教員計13名にて、協議のもと最終作品を選出

□ 作成者: 長谷部有輝さん(36)

□ キャラクター名:「虹のワック」

□ キャラクターの設定：

実験により実験により生まれた虹の生き物。
好奇心旺盛で、いつもキラキラしている。

子どもが大好きで、いつか子どもたちをワクワクさせられるような知識と夢を持った素敵な先生になりたいと思っている。

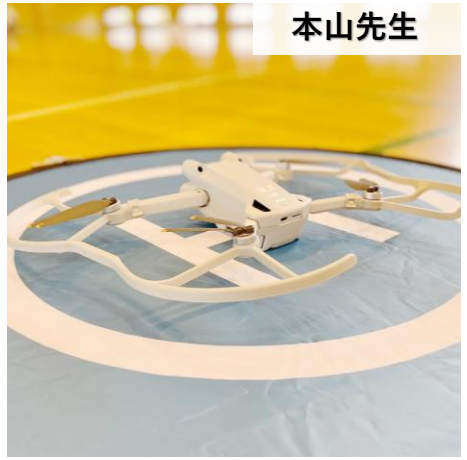
□作成者の想い：

山形大学、学び、子ども達、この三つを繋ぐ象徴となるようなキャラクターになってほしいという思いで作りました。
ずっとみんなに愛され親しまれるキャラクターであってほしいです。

STEAM

YU★STEAM　やまだいキッズラボ2023

ペーパークロマトグラフィーで作品作り！



ドローンを使って謎解きレース！

スポーツフォームを映像分析！

微生物が作り出す夢の新素材を体験！

■ 4月22日のイベントの申し込みは**3月27日12:30開始**！
■ 申込は**公式HP**から！**先着順**なのでお早めに！

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

PRESS RELEASE

山形大学
Yamagata University

令和5年（2023年）3月9日

地域の日本語教育環境の充実に向けた取り組み
～日本語教師を目指す人に向け、日本語教育文法を学ぶワークショップを開講～

【本件のポイント】

- 日本語教師を目指したい方、地域の日本語学習支援に携わっている方でスキルアップしたい方を対象にした、オンラインによる全8回（4月の毎週日曜・計4日間）のワークショップ。日本語教育文法の基礎を実践的に学ぶ。
- 令和4（2022）年2月に岩手県、秋田県、山形県の３県から７団体により締結した「なか東北連携」の協議会が後援。
- 同連携協定により、令和4（2022）年5～11月に地域日本語教育専門人材養成講座を開講。3県で31名が受講し29名が修了した。令和5（2023）年度も5月から実施予定。

【概要】

技能実習生や外国人労働者等の増加に伴って日本語教育の必要性が高まり、その専門人材の養成・研修が全国で行われています。本学でも、令和4（2022）年2月に「岩手県・秋田県・山形県による地域日本語教育専門人材養成事業に関する連携協定」（通称：なか東北連携）を締結し、5～11月には地域日本語教育専門人材養成講座を実施しました。同講座は、1年以上の日本語教授歴（地域の日本語教室含む）がある人や日本語教師養成講座修了生などを対象に行われ、3県で合計29名が修了しました（内、山形県は11名）。

一方で、同講座の実施により、日本語教師を目指す人が基礎知識を主体的に学ぶ場が必要であることがわかりました。そこで今回は、「日本語を教えてみたいけど、外国語としての日本語の文法を勉強したことがない」「文法書は読んだけど教えるには不安」といった方に向けた、日本語教育文法を学ぶワークショップを開催します。

【開催要項】

「日本語教育文法ワークショップ」

［日時］令和5（2023）年4月2日・9日・16日・23日（全て日曜）　時間は全て9:00～12:10（90分×2回／1日）

［講師］内海由美子、今泉智子、仁科浩美（以上、山形大学）・嶋ちはる（国際教養大学）

［対象］岩手県、秋田県、山形県在住の方（詳しくはチラシをご確認ください）

［定員］30名　［受講料］8,000円　［開講形態］オンラインによる受講者参加型ワークショップ

後　援／なか東北地域日本語教育専門人材養成協議会

【「岩手県・秋田県・山形県における地域日本語教育専門人材養成事業に関する連携協定」について】

令和4（2022）年2月に、岩手大学国際教育センター、国際教養大学専門職大学院グローバル・コミュニケーション研究科、山形大学学士課程基盤教育機構、公益財団法人岩手県国際交流協会、公益財団法人秋田県国際交流協会、山形市国際交流協会、特定非営利活動法人ヤマガタヤポニカの7者で締結した事業連携協定。令和4（2022）年に続き、令和5（2023）年5月から「地域日本語教育専門人材養成講座」を開講する予定。通称、なか東北連携。

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

【令和4年度「地域日本語教育専門人材養成講座」について】

・開催概要

［期間］　令和４（2022）年５月～9 月

［内容］　オンライン講座・実習：76 単位時間　・　対面実習：約 16 単位時間

※合計 約 92 単位時間の講座を実施（１単位時間＝45 分）

※オンライン講座・実習は岩手県、秋田県、山形県の３県合同、対面実習は各県で実施

※オンライン講座・実習の内容は、文化審議会国語分科会（2019）「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）確定版」の「日本語教師【初任】研修」を参考とした。

［講師］　松岡洋子（岩手大学）、伊東祐郎・嶋ちはる（国際教養大学）

内海由美子・仁科浩美・今泉智子（山形大学）

［応募条件］　・日本語教育に関する経験があること　　・オンライン受講が可能であること

・３県いずれかに在住し、講座修了後に地域日本語教育専門人材として活動する意思があること　等

［参加者数］　定員：各県 10 名（合計 30 名）

申込者数：71 名から 31 名（うち日本語非母語話者は１名）を受講者として選定

［修了要件］　・80％以上の出席

・模擬授業を含めた実習の実施と課題の提出

［修了者数］　受講者 31 名のうち、対面実習に移行した者は 29 名（岩手県 10 名、秋田県８名、山形県 11 名）

対面実習に移行した受講者全員が修了

※11 月 20 日にオンラインで３県合同の修了式を行い、修了証を授与。その後、各県・市の国際交流協会に、人材バンクへの登録を要請した。

オンライン講座の様子

対面実習の様子（山形大学）

講座終了後に実施したアンケートの結果、①オンラインという開催形態、②３県合同の開催形態、③講師が日本語教育専門で地域事情を知っていることの３点が高く評価されていました。このことから、外国人散在地域では日本語教育人材も散在しており、専門人材同士のつながりや、研修・情報交換の機会が求められていることがわかりました。

今後の日本語教育の活動についてアンケートを行ったところ、約 93％が国際交流協会の人材バンク登録に同意、あるいは既に登録済みであり、70％が有償の仕事が可能であると回答したことから、一定数の人材を養成・確保できたのではないかと考えられます。また、日本語教育の活動形態については、60％が対面でもオンラインでもどちらでもよいと回答したことから、地域の地理や気候に即した教育活動が可能であるといえます。対象者について複数回答で聞いたところ、「だれでもよい」「外国人労働者」が多く、教育の質保証が求められる学習者に対する日本語教育が期待でき、地域の要請に応えようとする人材という点でも講座実施の効果が認められます。一方、日本語教育の活動範囲については、約 60％が居住地かその周辺を希望しており、どの程度の範囲で人材養成を行えばいいのかが示唆されました。

【令和5年度「地域日本語教育専門人材養成講座」について】

講座の内容と日程の精査をし、令和５年度も地域日本語教育専門人材養成講座を実施します。３月中旬からの募集開始、５月 20 日の開講、12 月下旬の終了を予定しています。

お問い合わせ
学術研究院　教授　内海由美子（学士課程基盤教育機構 主担当）
TEL：023-628-4932 メール：yutsumi@kdw.kj.yamagata-u.ac.jp

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

PRESS RELEASE

山形大学 Yamagata University

令和５年（2023 年）３月９日

東北地方で現在の様な樹氷（アイスモンスター）ができるようになったのは 1000 年前頃からであることが分かりました

【本件のポイント】

●東北地方で樹氷（アイスモンスター）が作られるための条件である対馬暖流・寒冷化・常緑の針葉樹・樹氷（アイスモンスター）の元になっているオオシラビソ（アオモリトドマツ）がいつ揃ったのか文献調査しました。

●オオシラビソ（アオモリトドマツ）の分布域が拡大したのは 1000 年前頃からと考えられます。

●東北地方で現在のような樹氷（アイスモンスター）ができるようになったのは 1000 年前頃からであることがわかりました。

西吾妻の樹氷
2023 年 2 月 23 日　松木兼一郎氏撮影

【概要】

現在、樹氷（アイスモンスター）は八甲田・八幡平・森吉・蔵王・吾妻山のみでできています。樹氷（アイスモンスター）が作られるための条件である対馬暖流・寒冷化・常緑の針葉樹・樹氷（アイスモンスター）の元となっているオオシラビソ（アオモリトドマツ）が揃ったのはいつなのか文献調査しました。対馬暖流が流れ始めたのは 10000 年前頃から、寒冷化が生じたのは 4500 年前頃から、針葉樹の分布域が拡大したのは 2000―3000 年前頃から、オオシラビソ（アオモリトドマツ）の分布域が拡大したのは 1000 年前頃からです。以上から、東北地方で現在のような樹氷（アイスモンスター）ができるようになったのは 1000 年前頃からであることがわかりました。

【はじめに】

シベリアから吹いてくる寒冷で乾燥した冬の北西季節風は対馬暖流から水を供給されます。湿潤化した北西季節風は前山（山形の場合は月山―朝日連峰）に衝突して急上昇して断熱膨張することで雪雲を作ります。雪雲の最上部には過冷却水滴帯ができます。過冷却水滴は強風によって吹き飛ばされ、後山（山形の場合は蔵王）にある常緑の針葉樹であるオオシラビソ（オモリトドマツ）に衝突して氷の「エビノシッポ」となります。「エビノシッポ」のできているところは雪雲（吹雪）の中です。吹雪の雪が「エビノシッポ」に衝突して一体化（焼結）することが繰り返されることで大きな氷の塊である樹氷（アイスモンスター）ができます。

現在、樹氷（アイスモンスター）は八甲田・八幡平・森吉・蔵王・吾妻山のみに存在しています。しかし、樹氷（アイスモンスター）が作られるための条件（対馬暖流・寒冷化・常緑の針葉樹・オオシラビソ（アオモリトドマツ））が揃って、現在のような樹氷（アイスモンスター）ができるようになった時期は不明でした。

東北地方で樹氷（アイスモンスター）がいつからできるようになったのかを知るためには、以下の 3 つが起こった時期を知る必要があります。

＊氷河期が終わって対馬暖流が流れ始めた時期
＊温暖である縄文海進が終わり、寒冷化して亜高山帯の気象条件ができ始めた時期
＊亜高山帯に常緑の針葉樹林・オオシラビソ（アオモリトドマツ）の分布が拡大し始めた時期

今回、文献調査を行って上記の 3 項目の時期を特定し、いつから東北地方で樹氷（アイスモンスター）ができるようになったのかを求めました。

（お問合せ先）
山形大学認定蔵王樹氷火山総合研究会　副会長
（旧山形大学蔵王樹氷火山総合研究所）
山形大学名誉教授　柳澤文孝（環境科学）
メイル　icemonster.white(at)gmail.com

【文献調査の結果】

（1）氷河期が終わって対馬暖流が流れ始めた時期（＊1、＊2）
樹氷（アイスモンスター）の原料である水を供給するのは対馬暖流です。
氷河期のピークは 19000 年前頃で、海水面は今より 120m は低かったとされています。このため、北海道と九州には大陸とつながる陸橋があり、日本海は湖のような状態でした。気温の上昇によって氷河の融解が本格的に始まったのは 11000 年前頃からで、8000 年前頃に温暖のピークを迎えます。
以上から、対馬暖流が流れ始めたのは 10000 年前頃からと考えられます。

（2）温暖である縄文海進が終わり、寒冷化して亜高山帯の気象条件ができ始めた時期（＊1、＊2）
氷河の融解は 8000 年前頃にピークを迎えます。この頃の気温は現在より 1―2 度高く、海水面は今より 2-3 m高くなっていました（縄文海進）。現在より 1―2 度高い気温は樹氷（アイスモンスター）ができるためには高すぎる気象条件です。寒冷化に伴う海退が始まったのは 4500 年前頃（あるいは 4200 年前頃）からです。
以上から、温暖である縄文海進が終わって寒冷化が始まったのは 4500 年前頃からと考えられます。

（3）亜高山帯に常緑の針葉樹林・オオシラビソ（アオモリトドマツ）の分布が拡大し始めた時期（＊3、＊4、＊5、＊6：堆積物に含まれている花粉・火山灰・年代測定に関する文献）
寒冷化は 4500 年前頃から始まりました。東北地方で常緑の針葉樹が分布域を拡大し始めたのは 2000―3000 年前頃からです（図1）。4500 年前頃からの寒冷化で東北地方の高山地帯は亜高山帯の気象条件になったと考えられます。しかし、樹木の移動は花粉等が風によって飛散することで生じます。花粉が気象条件の適地に達するまでに時間を要することから、針葉樹が拡大し始めたのは 2000―3000 年前頃からになったと考えられます。
一方、東北地方でオオシラビソ（アオモリトドマツ）の分布域が拡大し始めたのは 1000 年前頃からです（図2）。オオシラビソ（アオモリトドマツ）は針葉樹の中でも多雪を好む樹種とされています。オオシラビソ（アオモリトドマツ）の分布拡大は気象条件の変化を示唆している可能性も考えられます。

【まとめ】

東北地方で対馬暖流・寒冷化・常緑の針葉樹の条件が揃ったのは 2000―3000 年前頃からです。一方、対馬暖流・寒冷化・樹氷（アイスモンスター）のもととなっているオオシラビソ（アオモリトドマツ）の条件が揃ったのは 1000 年前頃からです。以上から、東北地方で現在のような樹氷（アイスモンスター）ができるようになったのは 1000 年前頃からと考えることができます。

●参考文献（主なもの）

＊1　遠藤邦彦ら（2022）縄文海進―海と陸の変遷と人々の適応―., 冨山房インターナショナル.
＊2　川端穂高先生らによるご研究
例えば：気候変動と「日本人」20 万年（2022）川端穂高著, 岩波書店.
＊3　守田益宗先生らによるご研究
例えば：最終氷期以降における亜高山帯植生の変遷―気候温暖期に森林帯はより上昇したか？―., 守田益宗, 植生歴史研究（2000）9 巻1号, p3-20.
＊4　宮脇昭編（1989）日本植生誌　東北., 至文堂.
＊5　安田喜憲・三好教夫編（1998）図説　日本列島植生史., 朝倉書店.
＊6　池田重人先生ら（森林総合研究所）によるご研究

例えば:(1997)温暖化による植生変化を予測する一東北地方の亜高山帯を例として一.
:(1999) 地球温暖化による生物圏の脆弱性の評価に関する研究., (3)森林生態系の脆弱性評価に関する研究 ①寒温帯植生の積雪変動に対する感受性の評価と影響予測.

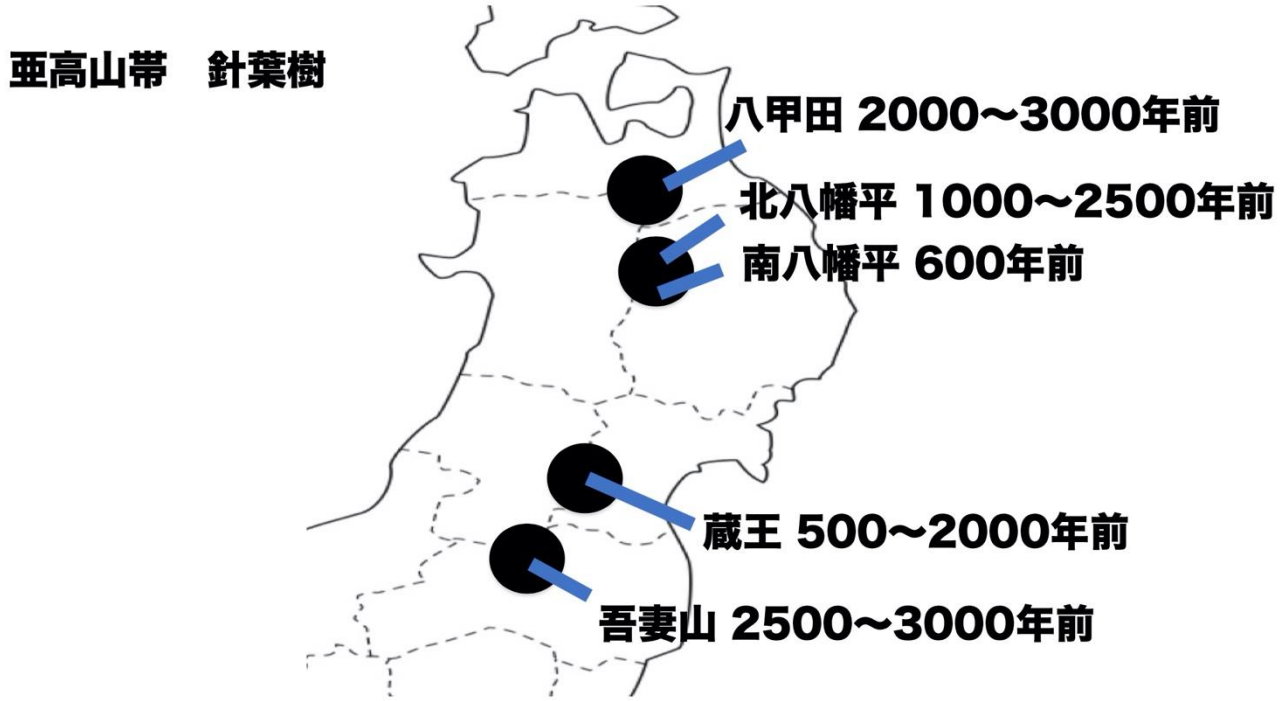


図1　針葉樹の分布が拡大し始めた時期（＊3、＊4、＊5）

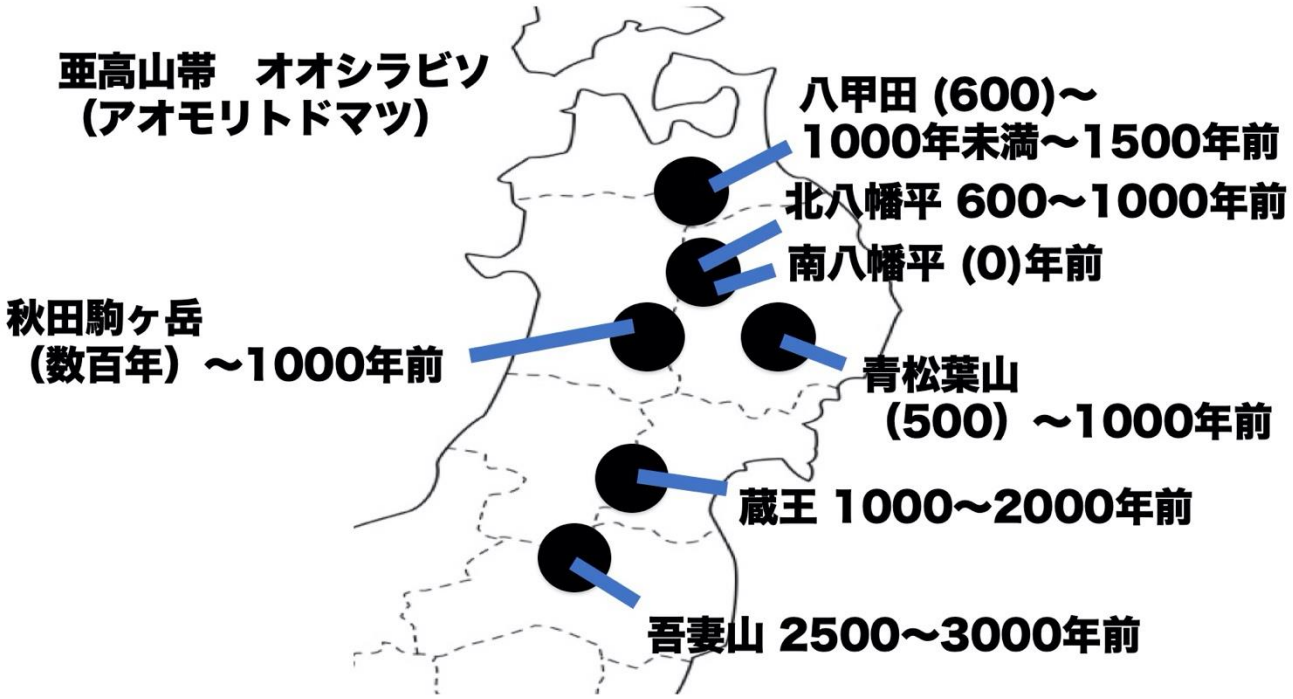


図2　オオシラビソ（アオモリトドマツ）の分布が拡大し始めた時期（＊3、＊4、＊5、＊6）

プレス通知資料（概 要）

令和５年(2023 年) ３月９日
山　　形　　大　　学

＊詳細は別添の資料をご覧ください。

１．山形大学学位記授与式等の取材に対するお願い

各キャンパス並びに各附属学校園において挙行する学位記授与式等についてご案内します。取材の際は、式典の円滑な進行にご協力くださいますようお願いします。

２．令和５年度山形大学入学式について

令和５年度山形大学入学式をやまぎん県民ホール（山形市）及び附属学校園において挙行いたします。取材の際は、式典の円滑な進行にご協力くださいますようお願いします。

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

PRESS RELEASE

山形大学
Yamagata University

令和５年（2023年）3月9日

山形大学学位記授与式等の取材に対するお願い

【本件のポイント】

- 各会場では、係員の指示に従っていただき、式典の円滑な進行にご協力をお願いいたします。
- 学長告辞については当日に配付いたしますが、式終了後に公表願います。
- 事前の取材申し込みは不要です（医学部・医学系研究科の会場を除く）。

【概要】

令和４年度学位記・修了証書授与式等を各キャンパス並びに各附属学校園において、下記のとおり挙行いたします。式当日の取材に際しては、各会場における留意事項を遵守の上、式進行の妨げとなるような行為は慎んでいただき、円滑な進行にご協力をお願いいたします。
また、学長告辞については当日に配付いたしますが、式終了後に公表願います。

●人文社会科学部・地域教育文化学部・理学部・養護教諭特別別科・社会文化創造研究科・理工学研究科（理学系）・教育実践研究科
日　時：令和５年３月２４日（金）１０：００開式
会　場：山形県体育館（山形市）
※会場のステージ上の照明器具が撤去されているため、撮影に十分な明るさが確保できない場合がありますので、照明機材をご用意ください。

●医学部・医学系研究科
日　時：令和５年３月２４日（金）１４：００開式
会　場：医学部大講義室（山形市）

●工学部・理工学研究科（工学系）・有機材料システム研究科
日　時：令和５年３月２１日（火）１１：００開式
会　場：米沢市営体育館（米沢市）

●農学部・農学研究科
日　時：令和５年３月１７日（金）１１：００開式
会　場：東京第一ホテル鶴岡（鶴岡市）

【附属学校園】
●附属幼稚園
日　時：令和５年３月１５日（水）９：４５開式
会　場：附属幼稚園遊戯室
●附属小学校
日　時：令和５年３月１９日（日）９：００開式
会　場：附属小学校体育館
●附属中学校
日　時：令和５年３月１６日（木）９：００開式
会　場：附属中学校体育館
●附属特別支援学校
日　時：令和５年３月１７日（金）９：３０開式
会　場：附属特別支援学校体育館

お問い合わせ
総務部総務課 TEL　023-628-4006

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

PRESS RELEASE

山形大学
Yamagata University

令和5年（2023年）3月9日

令和５年度山形大学入学式について

【本件のポイント】

- 各会場では、係員の指示に従っていただき、式典の円滑な進行にご協力をお願いいたします。
- 学長告辞については当日に配付いたしますが、式終了後に公表願います。
- 事前の取材申し込みは不要です。

【概要】

令和５年度山形大学入学式をやまぎん県民ホール（山形市）及び附属学校園において、下記のとおり挙行いたします。式当日の取材に際しては、各会場における留意事項を遵守の上、式進行の妨げとなるような行為は慎んでいただき、円滑な進行にご協力をお願いいたします。

また、学長告辞については当日に配付いたしますが、式終了後に公表願います。

【山形大学入学式】

日　時：令和5年４月3日(月)
会　場：やまぎん県民ホール（山形市双葉町1-2-38）
※報道機関への公開は第１部のみとさせていただきます。ご了承くださいますようお願いします。

（第１部）11：00～12：00（開場10：00）
医学部・工学部
医学系研究科・理工学研究科（工学系）・有機材料システム研究科

（第２部）14：00～15：00（開場13：00）
人文社会科学部・地域教育文化学部・理学部・農学部
社会文化創造研究科・理工学研究科（理学系）・農学研究科・教育実践研究科・養護教諭特別別科

（式次第）1.開式のことば
2.山形大学大学歌静聴
3.学長告辞
4.入学生宣誓
5.学長・副学長等紹介
6.閉式のことば
備　考：式典終了後、引き続き以下のとおり予定しております。
・全学オリエンテーション
・歓迎セレモニー（花笠踊り披露）

【山形大学附属学校園入園・入学式】

附属幼稚園
日　時：令和５年４月11日（火）10：00～／場　所：附属幼稚園遊戯室
附属小学校
日　時：令和５年４月８日（土）9：40～／場　所：附属小学校体育館
附属中学校
日　時：令和５年４月８日（土）13：30～／場　所：附属中学校体育館
附属特別支援学校
日　時：令和５年４月10日（月）10：20～／場　所：附属特別支援学校体育館

お問い合わせ
総務部総務課 TEL　023-628-4006